



カラスやキツネの 対策を考えましょう



近年、カラスからの威嚇やキツネの徘徊、ふんなどの相談が多数寄せられています。その多くは、巣の材料になるような物（手入れがされていない木や空き家など）の放置や餌となるものがあるなど、人が野生動物にとって巣を作りやすく住みやすい状況を作ってしまったことが原因です。

事前に対策をすることで防げることもありますので、習性や対策について確認し、実践していただきますようお願いいたします。

カラス対策

カラスは春から初夏にかけて巣作りをし、卵を産んでヒナをかえします。そして、子カラスが飛び立つまで親カラスがそばで見守っています。この子育ての時期に人間が巣やヒナに近づこうとすると、親カラスは子どもを守ろうとして、近づく人間を威嚇して遠ざけようとします。

カラスに巣を作らせないために

庭木の枝が生い茂っているとカラスに巣作りされやすくなりますので、木の枝の三つ股になった所をせんでいし、二股にすると巣を作られにくくなります。

また、針金製のハンガーなど、巣材に使われそうなものを野外に放置しないようにしましょう。

カラスの巣を発見したときは

カラスのヒナはふ化してから1か月ほどで巣立ちます。この1か月間に巣に近づくとヒナを守ろうとする親カラスに襲われる危険性が高くなりますが、巣立ってしまったら襲われることはなくなります。威嚇をされ、襲われるなどの被害がある場合は、環境衛生係へご連絡ください。カラスの巣は、鳥獣保護管理法により勝

手に撤去できず、市の許可が必要で

す。ただし、巣を撤去された親カラスは、これ以上人間に大切な子どもを盗られまいとして、その後さらに攻撃的になる例もあります。このため、生活環境に影響を及ぼすような被害のある場合以外は、刺激せず見守ったほうがよい場合もあります。

威嚇されないためには

巣や子カラスに近づかないことが第一です。巣を見上げたり、窓ガラス越しやベランダ越しに巣を見下ろすと親カラスに敵とみなされることもありまますので、むやみに巣を見ることはやめましょう。カラスを遠ざけようと棒を振り回す・石を投げるなどの行動は逆効果になります。

もし、威嚇される場合はつばのある帽子をかぶったり傘を差すことで攻撃を防ぐことができます。また、カラスは人間の背後を狙って飛んできますので、カラスに背を向けなければ威嚇行動を避けることができます。

住宅地のキツネ対策

毎年、住宅地でキツネを見かけるとの情報が寄せられています。キツ

ネはエキノコックス症の感染源でもありますが、鳥獣保護管理法により野生動物として保護の対象となっているため、原則、駆除はできません。よって、キツネに好まれる環境をつくらないことが重要です。

住宅地に寄せ付けないために

- 餌となる残飯や生ごみ、犬や猫の餌を外に放置しない
 - 生ごみが散乱しないよう、ごみステーションの管理を徹底する
 - 餌付けは絶対にしない
 - 大きな音を立てて追い払う
 - 木酢液など、キツネが嫌がるものをまく
- ※予防策を行ってもキツネの被害がある場合はご連絡ください。

エキノコックス症を予防しましょう

- 外出後はよく手を洗う
- キツネに触らない、近寄らない
- キツネのふんには直接触らない(処分する際は、小さなスコップなどを使い、30cm程の穴を掘って埋めるなどしてください)
- 家庭菜園の野菜や山菜は加熱またはしっかり水洗いする

環境衛生係 TEL 54・2121